

# 平成 28 年度教員の教育力向上のための授業改善研修会 発表報告

発表者 濱田 瑞美

---

公開授業（分野）：東洋美術史（共通科目／専門科目）

対象学年（履修区分）：1・2 年（必修／選択必修）

公開日時：平成 28 年 9 月 27 日（火）2 限

## ■公開した授業の当該科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

東洋美術史 第 2 回「中国殷周時代の美術—青銅器—」：中国古代の造形に込められた意味を読み解く  
前回、当該回で扱う青銅器の一部（文様）のスケッチおよびコメントをかかせて提出させており、当該回ではそれら学生のコメントを活かしつつ、青銅器の造形から読み取られる器物としての機能や文様の意味を学生に考えさせるとともに、神話を造形化した作品や時代背景等を解説した。第 2 回の当該回は、日頃馴染みのない中国古代の美術作品を、学生が少しでも身近に感じ、自分なりに興味を持つことを目指した

## 授業の進め方

主としてパワーポイントを使用、ホワイトボード併用。配布資料には主要な作品と文字情報を掲載。

### 【工夫した点】

講師の一方的な解説に終始するのではなく、可能な範囲でなるべく学生自身が考えるよう、学生のところに行きマイクを向けて質問しながら講義を行った。質問の際には、どのような回答でも何かしら前向きなコメントを返し、学生の関心を持続させるよう配慮するとともに、正答・意見を学生自身の力で導き出すことを目指した。またこうした取り組みは、作品を鑑賞し、言葉で表現することの習得に繋がると考えている。

また配布資料は書き込みできるよう余白を多めにとるなど、学生が集中力を持続して受講できるよう工夫した。

## ■参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

授業改善研修会の時点では、プロジェクターの投影画面が暗く、精度が低いため、スライドで示す作品の細かな図像が把握できず、教場の環境上での問題点として挙げたが、平成 29 年度では本館設置のプロジェクターが一新され、この問題は解消された。

このほか、スライドで解説するだけでなく、実物（レプリカを含む）を学生に提示し、素材の質感や存在感を実感させるとよい、との意見をいただいた。次年度に活かしていきたい。

美術史の授業では技法等の説明をすることも多いため、今後は実技科目の内容との連繋も考慮していきたい。

## ■その他

聴覚障害の学生および受講しているノートテイクーへの対応について

本授業には聴覚障害の学生が受講していた。当該学生への対応としては、事前に ppt 資料（講師の補足コメント付き）を配布し、授業の流れを簡単に説明。同じ ppt 資料をノートテイクーにも配布した。授業中、学生に質問をする際には、必ず当該学生にも質問を向けて答えさせ、ノートテイクーの学生には、他の学生と講師とのやりとりも全て伝えてもらうなど、当該学生が授業中に疎外感を抱かないよう工夫した。

本授業のノートテイクーは当初本授業の受講者でもあった。ノートテイクーが受講している場合、負担が大きく、聴覚障害の学生にとっての情報量が不十分になったり、何よりノートテイクーをした受講者の授業内容への理解が浅い等の傾向がみられるため、ノートテイクーは原則受講していない者であるのが望ましい。

なお配布した ppt 資料は当該学生が復習での使用を許しており、現状回収していない。他学生には特に配布していないため、公平ではないとする意見もあった。今後の課題としたい。

